

「今後の図書館サービスのあり方検討会」検討のまとめ

1 検討趣旨

「滞在型利用等新たな利用者ニーズへの対応」、「ICTの進展等社会環境の変化への適応」、「学校図書館の機能充実と地域開放」、「図書館サービス網のあり方」という課題を踏まえ、現在の運営の基礎となっている「区立図書館の今後の取組(考え方)」、「新しい中野をつくる10か年計画(第3次)」、「中野区教育ビジョン(第3次)」を再検討し、より効果的な図書館計画へとつなげるため検討を行うものである。

2 検討会概要

資料1「検討会概要」参照。

3 図書館の現状と他区との比較

(1) 区立図書館の現状(資料2「区立図書館の現状」参照)

① 施設規模等

施設数：8館 総面積：約9800㎡(中央図書館：4480㎡)

閲覧席：334席(パソコン専用席24席)

② 開館時間等

ア 開館時間

中央図書館：9時～21時 地域図書館：9時～20時

イ 休館日

各館休館日：月1日 館内整理日：月1日 年末年始 蔵書点検期間(3日～7日)

③ 利用登録

区分		平成11年度	平成15年度	平成20年度	平成25年度	平成30年度
利用登録者	全体	95,906	87,186	80,625	77,229	54,430
	区民	75,464	69,142	63,385	61,058	43,959
区民登録率		24.8%	22.4%	20.3%	19.4%	13.2%

④ 蔵書数

約 98 万冊（中央図書館：約 51 万冊、地域図書館：5.8 万冊～8.7 万冊）

⑤ 貸出数

区分		平成11年度	平成15年度	平成20年度	平成25年度	平成30年度
貸出人数	一般	535,731	423,346	546,582	533,684	498,215
	児童	68,422	62,755	71,661	61,331	58,230
貸出冊数	一般	1,623,432	1,298,230	1,650,660	1,595,790	1,581,774
	児童	288,233	269,009	353,372	309,262	329,742
1回貸出上限		7冊	10冊	10冊	10冊	15冊

(2) 他区立図書館との比較（平成 30 年度末）

		中野区	中野区民1人あたり		23区平均	備考
			値	順位		
閲覧席		334席	0.10%	21位	0.24%	
蔵書数	一般書	787,407冊	2.34冊	12位	2.26冊	
	児童書	192,811冊	0.59冊	21位	0.71冊	第1位との差：2.1倍
貸出数	一般書	1,593,733冊	4.85冊	15位	5.58冊	
	児童書	330,750冊	1.01冊	22位	2.29冊	第1位との差：4.4倍

(3) 学校図書館の現状

① 学校図書館法に規定され、「児童又は生徒及び教員の利用に供する」、「学校の教育課程の展開に寄与する」、「児童又は生徒の健全な教養を育成する」ことを目的としている。

② 学校司書の配置

学校図書館指導員が小・中学校全校に配置されている（全国的には 60%未済）

⇒勤務形態：月 16 日、1 日 4 時間勤務。

③ 蔵書数

ア 学校図書館標準の達成率については、全国平均を大きく上回っている。

イ 年間図書購入費の平均額を基準とすると、蔵書を一新するまでに 40 年程度が必要となる（全国的な課題）。

	～8000冊	～9000冊	～10000冊	～11000冊	～12000冊	～13000冊	13001冊～
小学校	13.00%	8.70%	30.40%	13.00%	4.30%	17.40%	13.10%
中学校	20.00%		10.00%	50.00%	10.00%	10.00%	

※ 学校図書館標準の達成率は、小学校：82.6%（全国66.4%）、中学校：90.0%（55.3%）。

(4) 数値等から見る図書館の問題点

- ① 利用登録が少ない。
 - 貸出冊数がほぼ横ばいであるので、中核的利用者に大きな変動はないが、新規利用者が継続利用者につながっていないことが想定される。
- ② 閲覧席が少ない。
 - 自習、パソコン利用等の需要に対応できていない。
 - ※ 中野区立図書館全8館：334席 ー ゆいの森あらかわ：800席)
- ③ 児童書の貸出数が少ない。
 - 文京区と4.4倍（区民1人あたり）の差が生じている。
 - 蔵書数についても、一般書に比して児童書が少ない傾向にある。
- ④ 学校図書館の蔵書の更新が遅い。
 - 年間図書購入費の平均額で考えると、蔵書の一新に40年間程度かかる。

4. 図書館に係る計画等（資料3参照）

～～ 以下、「区立図書館の今後の取組(考え方)」より ～～

(1) 目指すべき姿

区民の学びと自立を支え、地域文化を創造・発信する「知の拠点」

(2) 4つの目標と主な取組

目標Ⅰ「区民の学びと自立を支える課題解決支援型図書館」

- ① 各館の個性づくりを目指した蔵書構成の充実
- ② レファレンス・サービスの充実
- ③ ボランティア団体等の育成・活動支援や連携事業の実施
- ④ 電子書籍(デジター図書、地域資料などを中心に)の収集・提供
- ⑤ 情報活用力の向上のための講習会等（情報検索活用講座など）
- ⑥ 学生、ビジネスマン、外国人向け資料の充実

目標Ⅱ「家庭、学校、地域と連携・協力し、子どもの読書活動を支援する図書館」

- ① 子ども読書活動推進計画の取組推進
- ② 地域開放型学校図書館の整備

目標Ⅲ「郷土の歴史と特性を活かし、文化を創造・発信する図書館」

- ① ゆかりの作家等情報や、史跡等の観光資源情報を収集・発信
- ② 行政資料・地域資料の電子化と閲覧・貸出サービス
- ③ 区内の様々な機関との協働による、多様な事業の実施
- ④ なかの里・まち連携自治体との協働による、魅力ある事業実施
- ⑤ 中野の文化情報の積極的なPR
- ⑥ 郷土資料等の提供→区民グループ等への知的活動支援

目標Ⅳ「良質な区民サービスを提供する図書館」

- ① 簡素効率的な図書館運営

- ② 関係機関との協働
- ③ 機械化によるサービスの向上
- ④ 図書館の今後の機能の拡充

(3) (2) の取組状況

資料4「4つの目標の取組状況等一覧」参照。

5. 検討会での主な意見

(1) 図書館サービス全般

- お茶を飲みながら本を読むことが出来る場所が望ましい。現状では難しいかもしれないが、実現出来れば、心豊かなスペースになると思う。
- 高齢者の居場所、参加できる場としての図書館も考えて欲しい。
- 居場所としての機能を図書館に求める人も多く、それぞれのニーズを成立させるためには、明確なゾーニングが必要となる。
- アウトリーチという面では、現状の図書館は子ども施設側から動かないと動かない。ブックトークなども、児童館やすこやか福祉センターにも出向いたらどうか。
- 集う場所が図書館でなければならないという理由には疑問を感じる。例えば、子育てひろばに図書館員が出張して、本の読み聞かせや紹介をしてもいいのではないか。
- 図書館の他団体との連携については、中野区では子ども食堂なども盛んであり、それらの連携も模索してはどうか。
- 司書セレクトの絵本を、毎月自宅に配送するようなサービスができないか。
- 学校図書館と区立図書館の連携のため、協議会のようなものを設置したらどうか。
- 読書バリアフリー法（視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律）が制定された。それを踏まえ、身体障害者手帳を所持しない場合も、医師の診断書でデージー図書の利用ができるよう配慮して欲しい。
- デージー図書、対面朗読室、拡大読書器等、障害者向けサービスはあるが、なかなか認知されていない。サービスの周知には工夫が必要だと思う。
- 自動貸出機などの導入の際も、音声案内を行うなど視覚障害者にも使えるような配慮をしてもらいたい。
- ICT化のなか、合理性や便宜性だけではなく、人の目や手というものを大事にしてほしい。また、高齢者と障害者の対応を区分せず、一体的に行うことが必要。
- 日本の公共図書館は学校教育への関心が低く、教科書の収集を行わない。そのため教育現場からの要望を把握仕切れていないように思う。今後、教科書を収集し、子どもたちがどういう教育を受けているか知る必要がある。

(2) 図書館サービス網

- 概ね800mの円に一つ図書館があり8館となっており、その空白地域を埋めるような整備を行ってほしい。
- 中学校区に1図書館の配置が良いように感じる。理想の配置は10館で、大和町や鍋横にも図書館があったほうが良い。

- 図書館は地域の居場所、ビジネス支援だけではなく、高齢者も含め、地域の居場所となつてほしい。近くにあることが大切であり、本町・東中野図書館は残して欲しい。
- 鷲宮新図書館の建設の際に、近くの江古田・上高田図書館を廃止するということがおきないか心配である。現在のニーズを踏まえ、地域図書館の数を確保することが大切。
- 本町図書館が廃館になると、弥生町1丁目や本町5・6丁目が800m圏内では無くなる。その意味でも、8館から9館体制として本町図書館、東中野図書館は存続するべき。
- 地域開放型学校図書館をつくることで、地域図書館を廃止するという事は理解できない。その有効性を試験的に運営し検証するなどの必要を感じる。
- 本町図書館が廃館になり新図書館（中野東中学校等複合施設内図書館、以下同様）ができた場合に、新図書館に行くかどうかのアンケートをしてみたが、保育園児の足では遠すぎていけないという回答であった。身近に5万冊規模の図書館があるということが大切であるので、本町図書館は残してほしい。
- 専門的な蔵書がたくさんある図書館を目指すのであれば、小さい図書館を統合してより大きな図書館をつくることは合理的だと思う。ただ、個人的には、地域の人に身近な存在として、図書館を配置してほしい
- 地域開放型学校図書館を整備するのであれば、館数は増加するし、本の受け渡しに区民活動センターなども活用すれば、今以上に利便性の高いサービスが可能となる。
- 区外で働く勤労者などには、図書館は駅近くにあった方が便利であり、地域にあることの必要性には疑問がある。
- 障害があることは、移動が困難になるということである。蔵書もたくさんあり立派だが遠い図書館よりも、蔵書が無くても、のんびり自分の居場所として利用できる場が近くにあるほうがいい。

(3) 地域開放型学校図書館

- 本町図書館、東中野図書館を閉館せず、地域図書館のサービスを充実させ、800メートル圏内に図書館があるようにすれば、地域開放型学校図書館は必要ないのではないかと。
- 地域開放型学校図書館には反対である。セキュリティの問題もあるが、面積も狭く図書3000冊～5000冊であれば、単なる図書の授受等のサービスポイントにしかならない。
- 9時～20時で開設するより、児童館などに図書館がアウトリーチサービスを行うことが望ましいし、学校内のキッズ・プラザの面積を拡げたほうが良いと思う。
- 子どもは走り回りたいし、声を出すので、学校の防音設備などが気になりである。
- 子どもに特化できるのであれば、有効な運用が可能になるかもしれない。
- 乳幼児や高齢者にはいいかもしれないが、学校が好きではない子どもも一定数はいる。児童館が無くなり、キッズ・プラザも学校に入り、図書館も学校へとなると、学校が苦手な子の行き場が無くなる。
- 、誰でも入れてしまうということは不安である。誰が来ても拒めない。転出入も多い中野区では、セキュリティ対策も難しいと思うので、再度検討してほしい。
- 学校図書館と区立図書館を分けるのではなく、一つのものとして時間を分けて利用するなどを考えれば、現状より広く、蔵書も増加し、寝そべったり、自習したりと用途的にも広がる。
- 敷地も狭く、図書館、キッズ・プラザを入れると、校庭が狭くなり児童のためになら

ない。一律に整備するのではなく、その辺も加味し、臨機応変に検討していくことも必要ではないか。

(4) (仮称) 中野東図書館 (中野東中学校等複合施設内図書館)

- 9階のビジネス支援フロアについて、ニーズはあるかもしれないが、用途は限定しない方がよいのではないか。
- 子ども・子育て世帯、障害者、高齢者、地域の人、司書で運営協議会のようなものをつくって、定期的に運営について話し合ったらどうか。
- 図書館で子どもが走るということには違和感がある。地域には子育て支援で1日預かってくれる施設もあり、図書館内にそういうポイントをつくるなら調整が必要だと思う。
- 自動販売機は7階にも設置するのか。親子の利用を考えると、いちいち9階まで行くのは不便ではないか。
- ティーンズルームなどの自習室を設置することだが、せっきく設置するならば、もっと広くしてほしい。
- 予約室を子ども子育て支援フロアに一緒にすると、小さな子とトラブルは懸念されるので分けた方がいいと思う。
- 子育て支援フロアを誰でも利用できるというのは、どこの自治体でも問題になっており、結局大人が占拠していることも多い。運営がうまくいっているところは、大人を入れない。この辺は感染症対策の点からも専用スペースとすることが望ましい。

(5) 学校図書館

- 学校図書館は、読書センター、学習・情報センターとしての機能を有するが、蔵書数が十分でない学校もあることが現状。
- 学校図書館と中央図書館との連携もある程度できており、今後一層の充実が望まれる。
- 図書館との距離については、小学校としては、見学や体験ができる距離に図書館があると良いと思う。また、近い方が団体貸出の面でも利用しやすくなる。
- 学校図書館指導員は授業にも非常に有効であるが、力量の個人差が大きいという課題がある。そのため、全体を束ねるような存在があり、改善策なども提案してくれるようになるとよいと思う。
- 今後の課題としては、学習センター機能の拡充かと思う。来年度から区立図書館と学校図書館がオンラインシステムでつながり、学校図書館に無い本が区立図書館にある場合、すぐに借り受けられることになる。これには期待している。

5. 今後の図書館サービスの重点事項

今後の図書館サービスの大筋については、「区立図書館の今後の取組(考え方)」の趣旨を継承しつつ、本検討会でも検討した課題が改善されるよう具体的な手法の見直しを行う。

今回の検討で新たに指摘された課題、より充実が必要だとされた点については、以下のとおりである。

(1) 基本的な方向性

- ① 課題解決支援型図書館、ネットワーク型図書館という今まで積み上げてきた図書館像の基本は継承・拡充する。
 - 電子書籍（一般書）等の市場動向には留意するが、今後の数量的な拡大を待ってその導入を検討する。
 - 地域・行政資料のデジタルアーカイブ化など、資料的な価値の高い、紙資料については継続して電子化を進める。
 - 課題解決機能強化の一環として、オンラインデータベースの拡充を図る。
- ② 児童書の貸出し数が23区最下位級であることを憂慮し、子どもの読書活動の促進を図る。
- ③ 区民ニーズ、他自治体例を踏まえ、図書利用だけではなく、個人がさまざまな自己課題（自習、業務、資格取得等）のため利用できる「場」の提供を行う。
- ④ 地域団体、ボランティア、既存施設等との協働により、図書館外でのサービス網・事業の構築を図る。
- ⑤ ユニバーサルデザインに基づき、誰もが利用しやすい図書館の設備・運営を図る。
 - 読書バリアフリー法の趣旨による運営を図る。

(2) 子どもの読書活動の推進

- ① ブックスタート事業等による直接的アプローチの検討
- ② 施設を基盤とする事業展開（児童館、キッズプラザ、子育てひろば等との連携）
- ③ 1～5歳までの節目ごとの事業形成と個別アプローチ
- ④ 学校図書館の充実と連携（団体貸出、教科書レファ、現場対応共有化サイト）

(3) 滞在型利用への対応（自習、PC、資格取得等の利用）

- ① 閲覧席のゾーニングの実施
 - 図書閲覧席、自習・学習席、パソコン専用席等の区分を明確にし、多用途で利用可能な施設とする。
- ② 閲覧スペースの拡充

(4) アウトリーチ型サービスの拡充・促進

- ① 調べてみたくなる情報の発信（SNS、掲示—まちなか、施設等）
- ② 子育てひろば、子ども関連施設（児童館、キッズ・プラザ、保育園等）への出張事業
- ③ 団体貸出の拡充（学校、児童施設、高齢者施設等）
- ④ 町会、友愛クラブ等事業の展示と関連図書展示（館員が出向いて取材）

(5) 学校図書館の充実

- ① 図書更新・廃棄に係わる基準の作成
- ② 区立図書館との連携の強化
 - 団体貸出の拡充（学校図書館システムからの区立図書館利用、配送網の整備）
- ③ 学校図書館指導員制度の継続と機能の拡充
 - 業務補助の仕組みの検討
 - 情報共有の仕組みの構築

(6) 図書館サービス網（検討内容から）

① 基本的な考え方

中野区の図書館数が23区でも平均的なレベルであること、ネット予約/希望館で受け取りが可能な環境下では、現行の蔵書数でも十分機能している。

同時に、勤労者等については、その移動を考慮すると、駅中または周辺での図書の授受が望ましく、乳幼児親子、高齢者・障がい者などでは、自宅から「近い」ということにも価値がある点が指摘された。

② 地域図書館の配置

地域図書館については、自宅近くの「場」として存在することの重要性、とりわけ乳幼児親子、児童、高齢者等の居場所機能を考慮すると、蔵書数が十分ではないということはあるが、その存在は必要であるという点が指摘された。

③ 地域開放型学校図書館

限られた小学校の敷地内に設置することのデメリット（他用途の圧迫、1階等の利用の制限、セキュリティへの不安など）が指摘された。

また、室内の狭小さのため、一般利用と乳幼児等の利用を明確にゾーニングできないため、利用に支障がでるのではないかという点が懸念された。